



領域横断的な課題解決能力を身につけ、 持続可能な社会の実現を目指す

大阪府立大学 現代システム科学域 環境システム学類



フィールドワーク中心の 演習が2年次からスタートします

「環境システム学演習」では、様々なフィールドワークを経験できます。「環境システム学演習Ⅱ」で多様な分野を体験し、それを参考にゼミを選ぶことができます。(安達さん)

景観調査を基に、 新しい広場を提案しました

街づくりの手法を学ぼうと「環境システム学演習Ⅲ」を履修。大学の学生会館前の広場の景観を調査し、新しい広場の案を発表しました。仲間の発表も聞くことができ、同じ場所でも様々な提案が可能であることが分かり、視野が広がりました。(安達さん)



カキの生育と環境との関係について 現地調査しています

大阪・阪南市で、カキの生育とカキ養殖場の環境について調査。場所と深さを変えて採水などを行い、水質や、カキの生育を妨げる貝毒（*1）の原因となるプランクトンの有無を調べています。(橋本さん)

大阪府立大学は、2012年に領域横断的な学びを展開するため、学域・学類制を導入した（*2）。ほとんどの学類で1年次は幅広く学び、2年次以降に専門領域を選択する「経過選択制」を特徴にしている。現代システム科学域環境システム学類では、持続可能な社会の実現を追究し、現代の様々な環境問題に対応するため、自然・社会・人間の3領域を学び、多面的な手法で課題解決力を育んでいる。

1年次後期は、環境システム学類の3つの課程（環境共生科学、社会共生科学、人間環境科学）の概論を、

1年次は文理を分けず広く学び 2年次以降に専門領域を選択



現代システム科学域
環境システム学類
環境共生科学課程4年
安達ひかる

あだち・ひかる
兵庫県・私立甲子園学院
高校卒業。街づくりに興味
があり同学類に入学。



現代システム科学域
環境システム学類
環境共生科学課程4年
橋本弦太

はしもと・げんた
大阪府・私立清教学園中・
高校卒業。海洋生物の研究
を志し、同学類に入学。

*1 有毒プランクトンを食べた貝が蓄える毒素。その毒を持った貝を食べると中毒症状を起こすため、市場に流通させないようにしなくてはならない。

*2 文理の枠にとらわれずに学べるよう、学部・学科の間にあった壁を取り除いて、従来の7学部を4学域に再編した。学域は、現代システム科学域・工学域・生命環境科学域・地域保健学域がある。現代システム科学域は、知識情報システム学類・環境システム学類・マネジメント学類から成る。

毎回異なる教員が担当するオムニバス形式の授業で学び、領域横断的な視点を身につける。街づくりに興味があつて入学した4年生の安達ひかるさんは、同授業を履修し、学びたい分野が見えてきたという。

「集落に接した緑豊かな森の残る里山の景観を守るためには、様々な学問を学ぶ必要性を知りました。例えば、下草を刈らなければ山が荒れ、イノシシなどの害獣による農作物の被害が多くなります。そうした里山の生態系を理解するには、農作物の知識に加え、動物の知識も必要です。また、街中の美しい景観設計のためには、デザインや環境心理も学ぶ必要があると思いました」

2年次からフィールドワーク 中心の演習科目が開始

2～3年次には、「環境システム学演習Ⅰ～Ⅳ」を履修する。研究室での学びに必要な知識・技能を、実践的に身につけられる同学類の特徴的な科目だ。2年次前期の演習Ⅰを履修後に専門課程を選択、3年次前期の演習Ⅲの終了時には研究室を決定する。そして、3年次後期の演習Ⅳを終える頃には卒業研究のテーマ

が決められるよう、カリキュラムが設計されている。

「2年次の演習科目を通して、1年次に興味を持った景観の設計について深く学びたいと思い、環境共生科学課程に進みました」（安達さん）

演習は、グループでのフィールドワークが中心で、課題解決能力を身につけさせることをねらいとしている。4年生の橋本弦太さんは、演習Ⅲで大阪・千里ニュータウンでの街の利用状況に関する調査を行った。

「駅前近くでも整備されていない公園があり、教科書を読んで予想したことと異なる点も多く、実際に行かなければ分からないことが多いと実感しました」（橋本さん）

「私が履修した演習Ⅲでは、大学内の広場を調査し、新たな広場を提案することが課題でした。調査結果を基に広場のコンセプトを決め、具体的に景観を設計しました。景観の美しさに加え、データを基に広場の使いやすさや実現可能性を考慮する重要性を学びました」（安達さん）

どの演習も複数のテーマがあり、学生が希望のものを履修できるが、演習Ⅲは社会科学と自然科学両方のテーマに取り組む。

「自然科学系の海洋生物の研究ができるこの学類に入学しましたが、社会科学系の演習にも参加し、専門科目の社会学も履修しました。そこで、社会貢献するには、地域社会への理解や地域の方のニーズを把握することも大切だと学び、視野が広がりました」（橋本さん）

3領域を広く学んだからこそ 深い卒業研究が可能に

4年次から、橋本さんは、海洋環境学研究室に所属し、貝毒の原因となる植物プランクトンの増加を、海藻のアマモで抑制できないか研究している。

「研究に没頭すると、社会における自分の研究の意義を見失いがちなので、常に社会貢献の点を意識するようにしています。それは演習で鍛えられた視点です。卒業後は、大学院に進学し、研究を続ける予定です」

安達さんは、大阪・中之島にシンボルツリーが植樹された経緯や周辺に与える効果について研究予定だ。

「将来は、大学での学びを生かして、街づくりや良好な景観づくりに総合的にかかわれる公務員を目指しています」（安達さん）

大学の思い

広い視点を持ち、専門的な課題解決ができる人材に



現代システム科学域
環境システム学類
准教授
黒田桂菜
くろだ かな

本学類の大きな特徴は、自然・社会・人間にかかわる領域を横断的に学べることです。気候変動やエネルギー問題などの環境問題は、1つの領域の知見だけでは、解決できません。自然・社会・人間にかかわる様々な学問を融合させ、多面的なアプローチで課題解決へと導く力を身につけさせたいと考えています。

そのため、2年次から課題解決型の演習をスタートし、徹底的に課題解決能力を鍛えていきます。その中で大切に行っているのは、学外で、学生自身に課題解決の手法を模索してもらうことです。誰に協力してもらおうべきか、どのような話を聞いたらよいか、実際に動く中で、課題解決には何が必要なのかを考え、足りない知識・技能を大学で身につけてほしいと考えています。

入学時には、目標が明確に決まっていなかった学生が、4年間で自らの道を開拓していく姿を見ると、とてもたくましく思います。環境に興味のある学生はもちろん、ゆっくり進路を考えていきたいという学生にぜひ来ていただきたいです。